

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	自然科学		担当教員	笠井 正晴		
開講時期	3年次通年		総時限数	30 時限	授業形態	講義	単位数	4 単位

■ 科目内容

科学として分類される自然科学、人文科学、社会科学の体系を理解し、中でも自然科学の概念や実際の領域に対する理解を深める。物理、化学、生物や医学の中でも特に医学、医療に対して造詣を深め実践できる。生命の意義を理解し正しい生命倫理感を習得し、人間として望ましいあり方を考える。

■ 到達目標

1. 自然科学の概念を理解する。
2. 自然科学から発した医学や医療体系を理解し説明できる。
3. 生命倫理に対する自分なりの見解を述べることができる。
4. 医療を実践する精神的な風土を滋養する。

■ 授業方法・教材

各単元に対し作成された配布資料を用い、座学のみでなく医療実習を行う。

■ 学習方法

1年次の自然科学の学習に加え、3年次における授業と座学のみならず、授業中に各人の自然科学に対する考え方を述べ討論を行う。

■ 成績評価

期末試験による評価を行う。また自然科学に対する考え方につきディベートを行い評価する。医療実習の臨床能力評価をする。

■ 連絡事項

自然科学の体系を理解し、我々の住む世界のあるべき姿や将来の展望を考察できる医療人を育みたい。

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1			自然科学の歩み : History of natural science
2			ク
3			医学と医療の歴史 : History of medicine and therapy
4			ク
5			医の生命倫理 : Medical ethics
6			ク
7			死と死生観 : How to approach the termination of human life
8			ク
9			西洋医学と東洋医学の対処法 : Comparison of western medicine and oriental medicine
10			ク
11			医療診察の実践 : Practical medicine to patients
12			ク
13			生命体の発達 : Progress of cell biology
14			ク
15			人間と免疫 : Human and immunity
16			ク
17			感染症の歴史 : History of infection
18			ク
19			ウイルス感染と対策 : Viral infection and prophylaxis
20			ク
21			病態とその機序 : Diseases and their mechanism
22			ク
23			医療安全 : Prevention of medical accidents
24			ク
25			医療の仕組み : Network of medical system
26			ク
27			世界と日本の医療制度 : Medical systems in Japan and foreign countries
28			ク
29			最近の医療の進歩 : Recent progress of medical therapy
30			ク

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床医学各論	担当教員	塩崎 郁哉		
開講時期	3年次前期	総時限数	30 時限	授業形態	講義	単位数	4 単位

■ 科目内容

今日において様々な疾患があり、鍼灸治療に訪れる方々の病態や疾患も多岐にわたる。鍼灸治療の適応疾患は数多くある一方で、全てが適応というわけではなく、各種医療機関と連携をとりながら治療を進めていく必要がある。また、鍼灸師もチーム医療の担い手としてのニーズも高まってきており、他の医療従事者との共通認識、共通言語を持つことが求められる。

本講では現代医学の観点から各領域の代表的な疾患の概要を学ぶ。他の専門基礎分野科目の知識と関連づけながら、国家試験の対策のみならず、臨床に活かせる疾患の見方、考え方を身につけていく。

■ 到達目標

- ・各領域の代表的な疾患について、その概念、疫学、病態、症状、所見、治療、経過や予後を説明できるようにする
- ・現代医学の考え方を学び、鍼灸臨床のみならず、鍼灸師とういう医療人として他の医療関係者と対等に活躍できる力を身につける

■ 授業方法・教材

- ・「病気がみえる」各巻（医療情報科学研究所編、メディックメディア）： 教室に常備しています。
- ・教員が作成した資料、プリント

■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・解剖学や生理学の知識が本科目を理解するうえで必要になるため、予習・復習では解剖学や生理学の教科書と共に勉強することで、相互の理解がより深まる
- ・日常生活にアンテナを張り、ニュース等で出てくる病気や疾患について興味を持ち、その都度調べてみることで理解が深まる

■ 成績評価

- ・中間試験（50%）、期末試験（50%）

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1			感染症 : 感染源、感染経路
2			感染症 : 感染症法
3			感染症 : 予防接種法
4			感染症 : 細菌性感染症
5			感染症 : ウィルス性感染症
6			感染症 : 食中毒
7			感染症 : 性行為感染症
8			感染症 : 感染症の現状、院内感染
9			呼吸器疾患 : 肺炎
10			呼吸器疾患 : 肺気腫
11			呼吸器疾患 : 気管支喘息
12			呼吸器疾患 : 間質性肺炎
13			呼吸器疾患 : 過換気症候群
14			呼吸器疾患 : 気胸
15			膠原病 : 関節リウマチ
16			膠原病 : 全身性エリテマトーデス
17			膠原病 : 強皮症
18			膠原病 : 多発性筋炎
19			整形外科疾患 : 骨折
20			整形外科疾患 : 脱臼
21			循環器疾患 : 心筋症
22			循環器疾患 : 心臓弁膜症
23			循環器疾患 : 不整脈
24			循環器疾患 : 高血圧
25			その他の領域 : 小児科
26			その他の領域 : 一般外科、麻酔科
27			その他の領域 : 婦人科、皮膚科
28			その他の領域 : 眼科、耳鼻科、
29			その他の領域 : 精神科
30			その他の領域 : 心療内科

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	衛生学・公衆衛生学	担当教員	塙崎 郁哉		
開講時期	3年次後期	総時限数	30 時限	授業形態	講義	単位数	4 単位

■ 科目内容

衛生学・公衆衛生学とは個人のみならず地域社会や集団において疾病の予防、健康の保持増進、生命の延長をはかるための科学であり、学問である。公衆衛生の歴史には世界的な発展があり、それと同時に様々な問題がみられていた。現代日本においての生活習慣病、少子高齢社会、感染症問題、環境問題など直面する課題に目を向け学んでいく。

■ 到達目標

- ・健康な生活を送るための我々をとりまく様々な因子を理解する
- ・社会的な動向を理解し、それらを自らの活動領域で活かせるようにする

■ 授業方法・教材

- ・「公衆衛生がみえる2018～2019」（メディックメディア）
- ・教員が作成した資料、プリント

■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・聞いたことのある言葉や、よく耳にする言葉がよく出てくるため、身の回りに起きている事柄に置き換えて考えてみる
- ・細かな数字は年々変化するため、大枠を捉え理解していく

■ 成績評価

- ・中間試験（50%）、期末試験（50%）

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1			衛生学、公衆衛生学とは
2			衛生学・公衆衛生学の歴史
3			衛生学・公衆衛生学の活動と意義
4			健康の概要
5			健康管理
6			食品と栄養
7			運動と健康とは
8			環境とは
9			日常生活環境
10			環境問題
11			産業保健
12			産業保健
13			精神保健
14			精神保健
15			母子保健
16			母子保健
17			成人・高齢者保健
18			成人・高齢者保健
19			感染症とその対策
20			感染症とその対策
21			感染症とその対策
22			感染症とその対策
23			感染症とその対策
24			感染症とその対策
25			消毒法
26			消毒法
27			疫学
28			疫学
29			保健統計
30			保健統計

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	医療概論		担当教員	二本松 明		
開講時期	3年次前期		総時限数	15 時限	授業形態	講義	単位数	2 単位

■ 科目内容

施術者、医療関係者として知っておかなければならぬ現行の医療システムと倫理、その他の問題点（インフォームドコンセント、QOL、バイオエシックス等の概念）について学習する。

■ 到達目標

- ・医療の歴史についての概要を説明できる。
- ・現代の医療制度についての概要を説明できる。
- ・施術者、医療従事者として知っておかなければならぬ現行の医療システムと倫理、その他の問題点（インフォームドコンセント、QOL、バイオエシックス等の概念）について自分の考えを説明できる。

■ 授業方法・教材

- ・「公衆衛生がみえる2018～2019」（メディックメディア）
- ・教員が作成した資料、プリント

■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく

■ 成績評価

- ・期末試験（100%）

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1			現代医学の課題（西洋近代医学・東洋医学）
2			現代医学の課題（西洋近代医学・東洋医学）
3			現代の医療制度（医療と医療経済）
4			現代の医療制度（医療と医療経済）
5			現代の医療制度（医療と医療経済）
6			医療倫理 研究者の倫理
7			医療倫理 研究者の倫理
8			バイオエシックス（生命倫理）について
9			インフォームド・コンセントの概念
10			死の問題
11			施術者としての倫理
12			施術者としての倫理
13			医学と医療の歴史（1）
14			医学と医療の歴史（2）
15			医学と医療の歴史（3）
16			医学と医療の歴史（4）

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	関係法規		担当教員	塙崎 郁哉		
開講時期	昼間部：3年次後期 夜間部：3年次前期		総時限数	16 時限	授業形態	講義	単位数	2 単位

■ 科目内容

我々日本国民は憲法によって権利や自由を守られ、法律という名のルールに則って行動している。このルールを守らなくてはいけない一方で、ルールによって我々は守られていることも忘れてはならない。「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」を学ぶことで、はり師・きゅう師として何を守らなくてはならないのか、どのようなことに守られているのか理解をし、医療としての鍼灸を多くの方に啓蒙していくためにも必須の学問である。またそれに関連づけて他の法律についても学んでいく。

■ 到達目標

- ・「あん摩マッサージ、はり師、きゅう師等に関する法律」を通して、鍼灸師というだけではなく社会の一員として臨床に必要な法規を理解する

■ 授業方法・教材

- ・「関係法規」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・教員が作成した資料、プリント

■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・国家試験合格後に関わり合いが強くなる内容も多いが、臨床実習センターのことや自分が臨床勤務や開業することを想像して臨むことで、より理解が深まりやすい

■ 成績評価

- ・期末試験 (100%)

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1			あはき法：免許と試験規定
2			あはき法：施術、施術所に関する規定
3			あはき法：施術、施術所に関する規定
4			あはき法：施術、施術所に関する規定
5			あはき法：施術所の名称、広告の規定
6			あはき法：施術所の名称、広告の規定
7			あはき法：施術所の名称、広告の規定
8			あはき法：学校、養成施設の規定
9			あはき法：指定試験機関、指定登録機関、罰則規定
10			あはき法：罰則規定
11			関係法規：医療法、医師法
12			関係法規：その他医療従事者に関する法律
13			関係法規：薬事法、衛生関係法規
14			関係法規：衛生関係法規、社会福祉関係法規
15			関係法規：社会福祉関係法規、社会保険関係法規、その他関係法規
16			まとめ

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床東洋医学	担当教員	川浪勝弘 大塚吉則		
開講時期	3年次前期	総時限数	23 時限	授業形態	講義	単位数	3 単位

■ 科目内容

臨床東洋医学では、現代医学的な診察結果をもとに、適不適を判断し適切な治療が行なえるよう、その方法を学習する。特に臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対して、東洋医学と現代医学を総合した鍼灸治療を学習することを目的とする。

■ 到達目標

1. 臨床上遭遇しやすい疾患に対して、鑑別診断ができる。
2. 疾患を把握し、疾患の特徴を説明することができる。
3. 治療方針を組み立て、実際に治療を行なうことができる。

■ 授業方法・教材

教員の作成するプリント

■ 学習方法

座学と実技を交えながら、各疾患の特徴を把握し、鑑別診断を行ない各自で治療方針を立て、実際に治療を行なう。

■ 成績評価

期末試験・出席点で評価する。

担当職員 川浪 勝弘

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 札幌センチュリー病院

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1			スポーツ疾患
2			スポーツ疾患
3			老年医学
4			老年医学
5			老年医学
6			老年医学
7			小児疾患
8			小児疾患
9			漢方医学
10			漢方医学
11			漢方医学
12			漢方医学
13			鑑別診断
14			鑑別診断
15			鑑別診断
16			鑑別診断
17			鑑別診断
18			鑑別診断
19			鑑別診断
20			まとめ
21			まとめ
22			まとめ
23			まとめ

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	社会はり学・きゅう学	担当教員	川浪 勝弘 二本松 明
開講時期	3年次通年	総時限数	16 時限	授業形態	講義

■ 科目内容

学術講演会、学会に参加することによって、臨床の現場で行なわれている最新の知識・技術を学習する。卒前教育の一環として、臨床の現場で活躍している先生方から、地域で期待される鍼灸師業務、社会貢献のあり方について考える。

■ 到達目標

1. 各学術講演会に参加し、知識を深める。
2. 来校して頂いた先生方の講義・実技に触れ、内容を理解する。
3. 在学中に鍼灸の業界、卒後のことなどをイメージすることができるようとする。

■ 授業方法・教材

各学会に参加 講師が作成するプリント

■ 学習方法

学会、学術講演会に参加し、学習したことをレポートとして提出する。

■ 成績評価

レポート、出席点で評価をする。

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1			学術講演会
2			学術講演会
3			学術講演会
4			学術講演会
5			学術講演会
6			学術講演会
7			卒前教育
8			卒前教育
9			卒前教育
10			卒前教育
11			卒前教育
12			卒前教育
13			卒前教育
14			卒前教育
15			卒前教育
16			卒前教育

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	はり・きゅう実技	担当教員	川浪勝弘	堀 二葉
開講時期	3年次通年	総時限数	76 時限	授業形態	実技	単位数

■ 科目内容

- ・鍼の刺入技術の基本と身体各部の刺激方法および治療点への正しい刺鍼法を修得する。
- ・施灸用具とその取扱い、種々の灸療法、治療点への正しい施灸法を修得する。
- ・各領域における鍼灸治療を学び、鑑別診断や治療ができる目的とする。

■ 到達目標

1. 安全な刺入深度と刺入方向を習得する。
2. 疾患ごとの治療方針、治療方法を習得する。

■ 授業方法・教材

教員の作成する資料

■ 学習方法

教員がデモンストレーションを行い、その後ペアに分かれて鍼刺、施灸を行っていく。

■ 成績評価

実技試験 出席点で評価を行う。

■ 授業計画

二人の教員で行うため、回と項目が一致していません。1回～50回までの内容を川浪、51回～76回までの内容を堀が担当します。

担当職員 川浪 勝弘

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 札幌センチュリー病院

担当職員 堀 二葉

資 格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 ふたば鍼灸マッサージ院

■ 授業計画

二人の教員で行うため、回と項目が一致していません。1回～50回までの内容を川浪、51回～76回までの内容を堀が担当します。

回	月 / 日	出欠	項目
1			肩こり
2			肩こり
3			頸部 I
4			頸部 I
5			頸部 II
6			頸部 II
7			肩関節 I
8			肩関節 I
9			肩関節 II
10			肩関節 II
11			肩背部 I
12			肩背部 I
13			背腰部 I
14			背腰部 I
15			背腰部 II
16			背腰部 II
17			臀部 I
18			臀部 I
19			股関節 I
20			股関節 I
21			大腿部 I
22			大腿部 I
23			膝関節 I
24			膝関節 I
25			下腿部 I
26			下腿部 I
27			下腿部 II

28			下腿部Ⅱ
29			肘関節Ⅰ
30			肘関節Ⅰ
31			手関節Ⅰ
32			手関節Ⅰ
33			運動器疾患 まとめ
34			運動器疾患 まとめ
35			脳血管障害Ⅰ
36			脳血管障害Ⅰ
37			脳血管障害Ⅱ
38			脳血管障害Ⅱ
39			運動器疾患まとめⅡ
40			運動器疾患まとめⅡ
41			内科疾患Ⅰ
42			内科疾患Ⅰ
43			内科疾患Ⅱ
44			内科疾患Ⅱ
45			内科疾患Ⅲ
46			内科疾患Ⅲ
47			カンファレンス
48			カンファレンス
49			総括
50			総括
51			美容鍼 Ⅰ
52			美容鍼 Ⅰ
53			美容鍼 Ⅱ
54			美容鍼 Ⅱ
55			美容鍼 Ⅲ
56			美容鍼 Ⅲ
57			美容鍼 まとめ
58			美容鍼 まとめ

59			運動器に対する鍼灸 I
60			運動器に対する鍼灸 I
61			運動器に対する鍼灸 II
62			運動器に対する鍼灸 II
63			まとめ I
64			まとめ I
65			触診 I
66			触診 I
67			触診 II
68			触診 II
69			触診 III
70			触診 III
71			触診 IV
72			触診 IV
73			触診 V
74			触診 V
75			まとめ II
76			まとめ II

専門基礎分野

部	昼間部	科目名	臨床実習		担当教員	工藤 匡	阿部 吉則	
開講時期	3年次通年		総時限数	24 時限	授業形態	実技	単位数	2 単位

■ 科目内容

実際の鍼灸臨床の現場において、これまで学んできた座学および実技の知識・技術を確認し、総合的に応用できる能力を育成する。

■ 到達目標

1. 実際の患者を相手に医療面接ができる。
2. 実際の患者を相手に身体診察ができる。
3. 鍼灸施術を行うための臨床推論ができる。
4. カルテの記載ができる。
5. 症例報告を作成し、カンファレンスで発表ができる。

■ 授業方法・教材

1. 附属臨床センターにおいて、実際の外来患者を相手にグループ単位で臨床実習を行う。
2. 臨床実習の担当グループでない場合には、教室または実技室で講義等を受ける。
3. 臨床実習の内容について、グループごとにカンファレンスで症例発表を行う。

■ 学習方法

臨床実習では実際の外来患者を相手とするため、臨機応変な対応力が求められることとなる。普段から観察力を高め、医学的な疑問を持つことを習慣づけながら、自らが積極的に問題解決するための行動を取ってほしい。

■ 評価基準

1. 出席回数が基準を満たすこと。
2. 期日までに課題レポートや症例報告を提出すること。
3. 臨床実習や講義に積極性に参加すること。

■ 連絡事項

- ・臨床実習のグループ表や実施日については、別に連絡する。
- ・臨床実習の担当日に遅刻した場合には、教室での講義の方に出席することとする。

担当職員 工藤 匡

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 早稲田はりきゅう治療院

担当職員 阿部 吉則

資 格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 ユリ治療院

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項 目
1			別紙のスケジュール表を参照
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			

専門基礎分野

部	夜間部	科目名	臨床実習		担当教員	稻垣 吉一		
開講時期	3年次通年		総時限数	24 時限	授業形態	臨床実習	単位数	1 単位

■ 科目内容

現代医学的な診察の結果をもとに、治療の適不適を判断し、適切な治療が行えるよう、その方法を学習する。特に臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対して、東洋医学と現代医学を総合した鍼灸治療の実際を学習することに重点を置く。

■ 到達目標

臨床で扱うことの多い症候に対して治療の基本的な考え方と技術を修得する。

■ 授業方法・教材

職員の作成する資料

■ 学習方法

教員がデモンストレーションを行い、その後ペアに分かれて刺鍼、施灸を行っていく。

■ 成績評価

実技試験、出席点で評価を行う。

担当職員 稲垣 吉一

資 格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師

所 属 ほねつぎ鍼灸金剛院

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1			臨床実技の進め方
2			臨床評価プロトコールと姿勢の評価
3			問診総論
4			問診総論
5			腰痛問診と診察
6			腰部の体表解剖上の触診と刺鍼
7			腰部の体表解剖上の触診と刺鍼
8			下肢痛を伴う腰痛問診と診察
9			下肢痛を伴う腰痛問診と診察
10			下肢の体表解剖上の触診と刺鍼
11			膝痛問診と診察
12			下肢の体表解剖上の触診
13			膝痛問診と診察
14			下肢の体表解剖上の触診
15			まとめ
16			頸腕症候群問診と診察
17			頸腕症候群触診と刺鍼
18			頸腕症候群問診と診察
19			肩関節周囲炎の問診と診察
20			肩部上肢の触診と刺鍼
21			肩部上肢の触診と刺鍼
22			肘部手関節の問診と診察
23			肘部手関節の触診と刺鍼
24			上肢の触診と刺鍼

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	総合領域 I		担当教員	工藤 匡	阿部 塩崎	吉則 郁哉
開講時期	3年次通年		総時限数	38 時限	授業形態	実技	単位数	5 単位

■ 科目内容

臨床（ベッドサイド）では①知識（認知領域）、②技能（精神運動領域）、③態度（情意領域）の各領域が具備されていることが要求される。近年、医療従事者の人間性、態度、コミュニケーション能力の重要性が認識されている。本授業では、ベッドサイドで施術者に要求される知識、技能、態度の各カテゴリー内容について学ぶとともに、とくに良好な施術者-患者関係を築く上で中心的な役割を果たす、医療面接（メディカル・インタビュー）について学習する。

■ 到達目標

- 施術者に要求される臨床能力（知識、技能、態度）について理解する。
- 病歴聴取（問診、カルテ記載）、医療面接の基本的内容、手法について理解しつつ実践できる。
- 情報収集したデータから、客観的、論理的に総合判断する眼を養う。

■ 授業方法・教材

- 参考教科書：「臨床医学総論」（東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社）
- 配付資料と板書、スライドによるレクチャーを行った後に、ロールプレイを行う。

■ 学習方法

- 本教科では、皆さんが卒業して臨床家になるまで、最終的にどんな能力を身につけておかなければならぬかを整理します。本授業をもとに、今後本学で学ぶ各教科がどの臨床能力に関係するのかを意識するとともに、自分が不足している能力について常に点検・評価し自己学習できるように努力してください。
- とくに医療面接や病歴聴取については、本授業を受講するだけで身につくものではありません。また、本授業は、患者さんとのやりとりのマニュアルを学習するものでもありません。実際の施術者-患者関係は、異なるパーソナリティーの交流によって、常に変化し続ける動的なものです。日常の何気ない友人、家族とのやりとりの場面にこそ本当の訓練の場があることを意識して、自ら積極的に学習することにも努めて下さい。

■ 成績評価

- 期末試験で評価する。

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1、2			オリエンテーション、施術者に求められる「臨床能力」
3、4			医療面接の役割、病歴聴取－カルテ記載項目説明
5、6			医療面接で求められる4つの交流
7、8			病歴聴取の実際
9、10			言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
11、12			面接の導入　－挨拶、自己紹介、名前確認
13、14			面接の中間　前半－質問（開かれた・閉ざされた質問）、傾聴
15、16			面接の中間　後半－支持・共感、焦点づけ
17、18			面接の終結　－要約、確認等
19、20			医療面接の実際①
21、22			医療面接の実際②
23、24			医療面接の実際③
25、26			ロール・プレイング実習①
27、28			ロール・プレイング実習②
29、30			ロール・プレイング実習③
31、32			模擬患者（SP）実習 ①
33、34			模擬患者（SP）実習 ②
35、36			模擬患者（SP）実習 ③
37、38			総合領域Iのまとめ

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	総合領域Ⅱ		担当教員	二本松 明		
開講時期	3年次通年		総時限数	38 時限	授業形態	実技	単位数	5 単位

■ 科目内容

2年次科目である「臨床医学総論」の教科内容をもとに、基本的身体診察の実技を学習する。特に、理学的検査や神経学的検査の方法や意義を理解し、実際にモデルを利用して診察所見を得る過程を体験する。

■ 到達目標

1. 全身及び局所の診察方法の意義と方法を理解し、実際に行うことができる。
(血圧測定、脈拍測定、四肢長、周径、関節可動域検査)
2. 神経系(知覚、筋力、反射(表在反射、深部反射、自律神経反射、病的反射など))の診察方法の意義と方法を理解し、実際に行うことができる。
3. 理学的検査の方法と意義を理解し、実際に行うことができる。
4. 特徴的な症状と疾患との結びつけができるようになる。

■ 授業方法・教材

- ・教科書：「臨床医学総論」(東洋療法学校協会編、医歯薬出版)
- ・その他：必要に応じて講義内容に関する資料を配付する。

ビデオ教材、模型を適宜使用する。

※本科目は実技科目であるが、教室を使用した座学を中心とする授業も行う。

■ 学習方法

本科目は2年次に学習した「臨床医学総論」、「臨床医学各論」、「東洋医学臨床論」、「人体機能学」の内容を踏まえ、その実技を行う科目です。常に各科目との関連を振り返るよう学習を進めてください。

■ 成績評価

- ・期末試験で評価する。

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1			オリエンテーション、臨床医学総論の知識確認
2			バイタルサイン（血圧、脈拍測定等）
3			四肢長周径、体格指數、関節可動域検査
4 - 7			関節可動域検査
8			神経学的検査① 感覚検査（表在、深部、複合感覚；触、痛覚、位置覚、運動覚、立体覚、二点識別覚、皮膚書字試験の方法、伝導路）
9			神経学的検査② 反射検査（表在反射）
10 - 12			神経学的検査③ 反射検査（深部反射）
13			神経学的反射④ 反射検査（病的反射、自律神経反射）
14 - 16			運動機能検査① 徒手筋力検査（代表的部位）
17			運動機能検査② 筋トーヌスの診察（痙攣、固縮の確認）
18			運動機能検査③ 筋トーヌスの診察、小脳症状の診察
19			運動機能検査④ 小脳症状の診察、不随意運動の診察
20 - 22			脳神経の診察① II～VI脳神経 (視野、眼球運動、対光反射、輻輳調節反射)
23、24			脳神経の診察② VII、VIII脳神経 (表情筋、簡易聴力検査、オージオグラムの見方、平衡機能検査)
25、26			脳神経の診察③ IX～X II脳神経 (嚥下機能、舌の運動、構音障害)
27、28			理学的検査① 頸部、胸郭出口の理学的検査
29、30			理学的検査② 肩部、肘部、手部の理学的検査
31、32			理学的検査③ 腰部（股関節、仙腸関節含む）の理学的検査
33、34			理学的検査④ 膝部の理学的検査
35、36			その他の身体診察（打診、聴診）
37、38			総合領域IIのまとめ

※授業時間内に「はりきゅう実級評価審査（12月実施予定）」の練習が入る予定です。

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	総合領域Ⅲ		担当教員	二本松 明 阿部 吉則
開講時期	3年次前期		総時限数	38 時限	授業形態	講義

■ 科目内容

本科目では国家試験科目として配点割合の多い、「解剖学」、「生理学」、「東洋医学概論」、「経絡経穴概論」の教科に関する知識を国家試験合格レベルの水準になるよう1年次、2年次の復習を行い、知識の統合と更なる深化を目指す。

■ 到達目標

- ・解剖学の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・生理学の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・東洋医学概論の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・経絡経穴概論の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。

■ 授業方法・教材

- ・「解剖学」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・「生理学」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・「経絡経穴概論」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社

※解剖学、生理学では1年次、2年次に配付使用したプリントを使用します。

■ 学習方法

- ・7月の中間試験までに解剖学、生理学、経穴（経絡の流注、要穴とその取穴部位）の復習を終了すること。
- ・9月の期末試験までに上記教科に加え東洋医学臨床論（東洋系）、臨床医学各論（特に腎泌尿器、内分泌疾患、神経疾患）の復習を終了すること。
- ・各教科の内容のつながりを理解し、学習すること。
- ・理解するのみだけでなく人に説明できるようにすること。
- ・授業以外でも学習する癖をつけること。

国家試験対策補講（昼間部：毎週火曜日などを予定、夜間部：毎週火曜日か金曜日を予定）等に参加し、苦手な内容を減らすことも推奨します。

■ 成績評価

中間試験、期末試験で評価する。

※中間試験は「解剖学」、「生理学」、「経絡経穴概論」「東洋医学概論」で評価します。

※期末試験は「解剖学」、「生理学」、「臨床医学各論」、「経絡経穴概論」、「東洋医学概論」、「東洋医学臨床論」で評価します。

■ 連絡事項

科目担当者毎に教科が変わります。用意する教科は担当者に問い合わせること。

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1、2			
3、4			
5、6			
7、8			解剖学：骨、筋、関節
9、10			生理学、臨床医学各論：腎泌尿器・内分泌 経絡経穴概論
11、12			
13、14			
15、16			
17、18			
19、20			
21、22			
23、24			
25、26			
27、28			解剖学：内臓
29、30			生理学、各論：筋、運動神経★経絡経穴概論 東洋医学臨床論（特に東洋系）
31、32			
33、34			
35、36			
37、38			

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	総合領域IV		担当教員	二本松 明 阿部 吉則
開講時期	3年次後期		総時限数	38 時限	授業形態	講義

■ 科目内容

本科目では国家試験科目である、「解剖学」、「リハビリテーション医学」、「生理学」、「臨床医学総論」、「臨床医学各論」、「経絡経穴概論」、「東洋医学概論」、「東洋医学臨床論」、「はりきゅう理論」の教科に関する知識を国家試験合格レベルの水準になるよう1年次、2年次の復習を行い、知識の統合と更なる深化を目指す。

■ 到達目標

- ・解剖学の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・リハビリテーション医学の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・生理学の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・臨床医学総論・各論の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・経絡経穴概論の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・東洋医学概論の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・東洋医学臨床論の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。
- ・はりきゅう理論の知識を国家試験の合格に必要なレベルに到達する。

■ 授業方法・教材

- ・「解剖学」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・「リハビリテーション医学」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・「生理学」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・「東洋医学概論」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・「はりきゅう理論」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・「経絡経穴概論」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社

※解剖学では1年次に使用した解剖学のプリントを使用します。

※2年次に使用した「臨床医学総論」、「臨床医学各論」の配布資料を適宜使用します。

■ 学習方法

- ・12月の中間試験までに総合IIIで行った科目の他にリハビリテーションの医学東洋医学臨床論、はりきゅう理論の復習を終了すること。
- ・各教科の内容のつながりを理解し、学習すること。
- ・理解するのみだけでなく人に説明できるようにすること。

- ・授業以外でも学習する癖をつけること。

国家試験対策補講（昼間部：毎週火曜日などを予定、夜間部：毎週火曜日か金曜日を予定）等に参加し、苦手な内容を減らすことも推奨します。

■ 成績評価

中間試験、期末試験で評価する。

※中間試験は、「臨床医学総論」、「リハビリテーション医学」、「臨床医学各論」、「東洋医学臨床論」、「はりきゅう理論」で評価する。

※期末試験は、上記科目に「解剖学」、「生理学」、「東洋医学概論」、「経路経穴概論」を追加して評価する。

■ 連絡事項

科目担当者毎に教科が変わります。用意する教科は担当者に問い合わせること。

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項目
1、2			
3、4			
5、6			
7、8			臨床医学総論、臨床医学各論、はりきゅう理論 東洋医学概論、東洋医学臨床論、経路経穴概論 ※問題演習と解説からなる授業となるため各種資料を用意すること
9、10			
11、12			
13、14			
15、16			
17、18			
19、20			
21、22			
23、24			
25、26			
27、28			臨床医学総論、臨床医学各論、はりきゅう理論、病理学 東洋医学概論、東洋医学臨床論、経路経穴概論 ※問題演習と解説からなる授業となるため各種資料を用意すること。
29、30			
31、32			
33、34			
35、36			
37、38			